

令和5年度 農政建設常任委員会 行政視察報告書

1 視察日

令和5年7月5日（水）～7日（金）

2 参加委員8人

丸山 章（委員長）、橋本洋一（副委員長）

宮川大樹、山田忠晴、波多野一夫、飯塚義隆、武藤正信、こんどう彰治

3 視察先

(1)旭川市地域振興部（北海道旭川市6条通10丁目）

(2)富良野市経済部農業担い手育成センター（北海道富良野市山部東21-12）

(3)江別市建設部（北海道江別市別本町21）

4 視察の目的

(1)旭川市「北彩都あさひかわ整備事業」

(2)富良野市「富良野市農業担い手育成センターによる新規就農者支援」

(3)江別市「江別河川防災ステーション」

5 テーマ等

(1)旭川市：景観重視のアプローチによるまちづくりの手法

(2)富良野市：農業の担い手確保、新規就農者支援

(3)江別市：放水路整備を含む水防、河川防災

6 現状等（社会情勢、当市・他市の状況、問題点など）

(1)旭川市

当市では、現行の観光交流ビジョンが令和5年度で終了することから、令和6年度以降の観光に係る計画を策定する予定である。

当市は城下町であり、城下町ならではの歴史的な家屋や寺社群などの町並み保存も含めて観光施策の計画を策定することとしている。

観光にとって景観の良し悪しは重要な要素であり、旭川市の「北彩都あさひかわ事業」は歴史的建造物の保全に関するまちづくりそのものではないが、景観重視のアプローチによる手法は、当市の歴史的な街並み保存も含めたまちづくりにとって参考になるものとする。

(2) 富良野市

当市においては、農業の担い手確保は喫緊の課題であり、各種の施策を実施しているところであるが、活動拠点を設置し、就農に関して総合的に取り組んでいる富良野市の取組みは新規就農者にとって安心できるものであり、大変参考になるものとする。

(3) 江別市

当市では、市内を流れる河川について、過去に甚大な水害をもたらした経緯を踏まえ、河川を分岐させ、海に放流するための放水路を国が検討しており、議会としても放水路を含めた河川防災は重要な行政課題を捉えている。

河川防災ステーションをはじめとする江別市の取組みは、当市の水防・河川防災にとって大いに参考になるものとする。

7 視察概要

(1) 旭川市「北彩都あさひかわ整備事業」

旭川市地域振興部職員からの事業概要の説明を受けた後、質疑応答、意見交換を行い、旭川駅前広場をはじめ関係個所の視察を行った。

(説明者：旭川市地域振興部地域振興課)

(説明者：旭川市地域振興部都市計画課)

<概要>

「北彩都あさひかわ」は旭川市の再開発事業「旭川駅周辺開発地区」の愛称であり、立体交差事業、土地区画整理事業、河川空間整備事業などの総称である。旭川の新たな教育・文化・産業・行政の拠点形成と自然環境を生かした都市空間の創出を目指している。

(2) 富良野市「富良野市農業担い手育成センターによる新規就農者支援」

富良野市が設立した農業担い手育成センターの職員から事業概要の説明を受けた後、質疑応答、意見交換を行い、関係施設の視察を行った。

(説明者：富良野市経済部農業育成センター)

<概要>

農業の担い手不足は、農業・農村の存続にとって最大の危機要因であり、富良野市農業・農村基本計画において重点課題に位置付けている。

今後、実効性のある対策を実施していくためには、地域と連携の下で関係機関や団体がそれぞれ保有するノウハウを集結する体制を整備する必要

があると考え、富良野市の農業関係団体が集結して平成 28 年に「一般財団法人富良野市農業担い手育成機構」を設立した。

現在は新規参入者や親元就農者の就農支援、農業従事者の確保と育成を一元的に行い、将来にわたって農業振興、活力ある農村の形成に寄与する人材の確保に取り組んでいる。

(3) 江別市「江別河川防災ステーション」

江別市建設部職員から事業概要の説明を受けた後、質疑応答、意見交換を行い、関係施設の視察を行った。

(説明者：江別市建設部)

<概要>

江別河川防災ステーションは北海道開発局と江別市の共同事業により、石狩川と千歳川の合流点付近に建設され、平成 14 年 10 月にオープンした。

水防倉庫、水防資材備蓄基地、駐車場等を配備し、災害時は水防活動や緊急復旧活動の拠点として、平時は水防訓練や災害学習、イベントの場として活用されている。

8 所 感 (当市に導入すべき点、導入に当たり注意すべき点、今後の方向性など)

(1) 旭川市「北彩都あさひかわ整備事業」

当市においては、30 年前に 30 年間にわたる将来都市プランを策定したが、市長の交代等によりそのプランが都市整備に活かされていないのが実情である。

旭川市において、平成 2 年の計画策定から設計、施行から 30 年以上経過する今日に至るまで一貫した推進体制が構築されていることに驚く。

事業主体が旭川市、北海道、国土交通省、北海道旅客鉄道と広範で、1,000 億円を超える膨大な費用をかけて推進したプロジェクトである。事業規模が大き過ぎて当市の参考になる取り組みは多くないと思われるが、一貫した推進体制の維持と国、県との連携から学ぶ点が多い。

意見交換での主な項目は以下のとおりである。

- 事業主体と費用負担、市・県・国の関わり方
- 景観保全と利用面の便利さの両立
- 長期にわたる事業推進期間における業務の継続、モチベーションの維持
- 市長と都市プランナーの意見調整



写真 旭川市の担当者から説明を受ける委員一同



写真 旭川市の議場を見学した委員一同

(2) 富良野市「富良野市農業担い手育成センターによる新規就農者支援」

農業が基幹産業であるとの認識は当市も富良野市も共通する。しかし、現実には厳しい。農村人口の減少、高齢化によって農村機能の低下、農業の担い手不足など根本的な課題に直面して、農業者も行政も悩み、苦しんでいるのが現状である。

就農者支援の活動拠点を設け、就農支援に関して総合的に取り組んでいる富良野市の施策から学ぶべきものは多い。

意見交換での主な項目は以下のとおりである。

- 新規就農者を呼び込むための工夫
- 新規就農者からの要望及び定着のための施策
- 現行の支援制度の効果と課題。
- 農業経営を営む環境基盤、地元農協の取組み
- 5年の支援期間経過後のサポート体制

(3) 江別市「江別河川防災ステーション」

当市においては水防、河川防災が大変大きな課題であり、これで十分ということはない。国、県と連携した施策を継続して取り組まなければならない状況にある。

過去に甚大な水害をもたらした経緯を踏まえ、河川を分岐させ、海に放流するための放水路計画をはじめ水防・河川防災は議会としても重要な行政課題の一つとして取り組んでいるところである。

河川防災ステーションをはじめとする江別市の取組みは、当市の水防・河川防災にとって大いに参考になるものと考ええる。

意見交換での主な項目は以下のとおりである。

- 河川災害の歴史
- 河川防災対策の現状と課題
- 河川防災ステーション設置の経緯と維持管理費
- 河川管理者との連携、防災訓練の実施状況
- 河川防災ステーション設置後の市民の防災意識の変化、市民の利用状況



写真 調査事項の説明に先立ち、委員を代表して委員長があいさつする様子



写真 座学の後、説明を受けながら施設内を実際に見学する委員の様子